

教科総務部資料

【新規団員が用意する費用について】

マラヤ大学予備教育センター A A J 教科総務部

赴任に際しての旅費や宿泊費などは、マラヤ大学の規定により支給されますが、来馬の準備や当初の生活のために自己負担金が必要となります。その概算を以下に示しますので参考にしてください。

なお、この中には、後に手当として支給されるものも含まれています。また、家族構成や車の購入、海外保険の加入の有無、また換金レートにより費用は異なりますので、ご注意ください。

1 必ずかかる費用 (90万~100万円)

(1) コンドミニアムの契約金等 60万円

団員が入居するコンドミニアムを確保するため、事前に契約をしておきます。その際、コンドミニアムの敷金2ヶ月や4月分部屋代、インターネット契約等で必要となる金額です。残った額は来馬後に返金します。この60万円は1月下旬頃、副教科長宛てに海外送金をしてもらいますので、それまでに準備してください。保証金(家賃0.5ヶ月分)は、コンドミニアムの補修等が必要な場合はその費用に充当され、それを差し引いた残金がコンドミニアム解約時に返金されることになっています。

(2) 生活費(4,5月分)+家賃5月分 約30万~40万円

マラヤ大学からの給料や、文部科学省からの手当は例年5月下旬に振り込まれます。その間の生活費は自分で準備しておく必要があります。これは日本出発までに準備する費用になります。

※部屋代は住居手当として文部科学省から支給されます。(例年4月来馬の場合は5月以降)

2 必要に応じてかかる費用(個人により異なります)

(1) 自動車

新車購入の場合 120万円~250万円、リースの場合 5万円(保証金)+5万円(月額)

こちらで自家用車があると大変便利で、現団員はほぼ全員が所有しています。(車購入の場合は帰国時に売却でき、新車の場合は使用2年で購入時の6割から8割の価格で売却できます。)

(2) 予防接種

渡航前に予防接種を受けることが推奨されています。(A型肝炎、B型肝炎、破傷風、日本脳炎等)

種類、価格については、病院でご相談ください。(一人当たり) 数万円~20万円

(3) 来馬用生活用品準備および常備薬等準備 数万円~10万円

(4) 海外旅行保険(1人当たり2年間) 30万円~40万円

この保険の加入は任意ですが、保険会社が提携している病院では、日本語での受診やキャッシュレスサービスが利用できます。高額な医療費支出に備えて多くの団員が利用しています。

詳細は文部科学省の説明会で説明があります。費用は利用する保険会社や契約内容により調整できますので、最寄りの保険会社に相談してみるとよいでしょう。

※ 海外旅行保険に加入しない場合でも、マラヤ大学の指定病院にて無料で受診することもできます(無料受診できない疾病もあります)。ただし、英語またはマレー語での問診となります。また、現役教員は所定の書類を提出することにより、帰国後に公立学校共済から約7割の還付を受けることができます。

(5) 教育費(日本人学校の場合)

6月までに必要な経費は、入学金、授業料、スクールバス料金など (1人当たり) 約50万円

教務部資料

マラヤ大学予備教育センター AAJ 教科教務部

1 目的

マラヤ大学予備教育センター日本留学特別コース（以下、AAJ）は2年制で、学生に、EJU（日本留学試験）及び修了試験に合格し、留学先である日本の国立大学での学習に支障なくついていけるような学力を付けさせることを目的としています。このEJUは2007年度から導入され、現在では、この結果と修了試験の成績、2年間の出欠状況などを総合して日本留学の可否が判定されています。

2 学習指導内容

AAJでは、約1年半の短い期間で、日本の高校3年分の授業内容を学習することになります。そのため、各教科で教材や指導方法を工夫し、授業を実施しています。詳細は各教科のページをご覧ください。

3 授業時数と授業展開

AAJでの2年間は、 Semester I（1年前期）～ Semester IV（2年後期）で構成されています。授業日は月～金曜日で、1日8時間授業（午前：1～5、午後：6～8）です。ただし9時間目に、LHRや補習の授業を行うこともあります。今年度の各教科の1週間あたりの授業時数は下表のとおりです。

	数学	物理	化学
Semester I（1年前期）	4	3	3
Semester II（1年後期）	8（数学 $\alpha+\beta$ ）	5	5
Semester III（2年前期）	10（数学 $\alpha+\beta$ ）	9	8
Semester IV（2年後期）	未定	未定	未定

※ 学生は、各教科の授業以外に日本語や英語の授業等も受講します。

(1) Semester I（1年前期）

2022年度まではローカル教員とチームティーチング形式で授業を行っていましたが、カリキュラムが改訂され、2023年度からは主に日本人教師が英語を用いて授業を行います。授業内容は、現在各教科で検討しています。

(2) Semester II（1年後期）～ Semester IV（2年後期）

日本語を用いて各教科（数学、物理、化学）の授業を行います。数学は数学 α と数学 β に分かれそれぞれ4クラス編成となり、Semester IIIからは習熟度別クラス編成となります。物理と化学は5クラス編成で授業を実施しています。また、EJU前には、各教科で習熟度別に分けて授業をするなど、学生の理解をより深める工夫をしています。また、物理・化学では、実験を行う機会もあります。

4 定期試験

Semesterごとに中間試験・期末試験があります。ただし、Semester IVは修了試験のみです。学生が次のSemesterに進級するためには、試験結果や平常点等による成績が合格の基準を超える必要があります。

5 学生の在籍数

令和5年4月20日現在、2年生44名が在籍しています。1年生については、通常であれば5月入学ですが、コロナウィルスの影響により今年度も8月に入学する見通しです。

6 教科指導以外の内容

Semester IIからクラス担任を配置し、必要な連絡や指導等を行います。Semester III以降は、よりきめ細やかな指導を実践できるよう、クラス担任に加えて学生一人ひとりに学生担当教員を配置し、個人面談・進路指導等を行っています。学生担当教員は一人につき学生3名程度を担当します。

数学科指導状況

1 指導範囲

日本留学試験（以下EJU）のシラバスを基に指導します。これは日本の高校のカリキュラムと同様に、旧課程の数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bの一部を除く全ての範囲の指導となります。さらに日本の大学受験指導と同じように、EJUに向けた発展的な内容の指導も行います。そして年度によっても異なりますが、修了試験後は学習指導要領外の内容や日本の大学入試問題、大学の教養程度の内容なども指導しています。

2 使用教材（2023年度）

- 2年生 教科書 数研出版 改訂版 新編 数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学A，数学B
問題集 数研出版 改訂版 基本と演習テーマ数学Ⅰ+A，数学Ⅱ+B，数学Ⅲ
参考書 数研出版 改訂版 チャート式 基礎と演習 数学Ⅲ（白チャート）
AAJ作成オリジナルテキスト
- 1年生 教科書 数研出版 改訂版 新編 数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学A，数学B
参考書 数研出版 増補改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A（青チャート）
増補改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A（青チャート）
改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅲ（青チャート）
AAJ作成オリジナルテキスト

3 授業の進め方

私たち日本人教員は、予備教育センター1年生の6月（2023年度は8月）から週2時間の演習を英語で行います。10月中旬からの演習は一部日本語を用いて行います。12月以降は日本語（一部英語）で授業を行います。翌年11月の第2回EJUまでの約18ヶ月間（2023年度は16ヶ月間）で日本の高校3年分の内容を指導し、EJUに向けて留学に必要な学力を育成します。さらに、本コースの修了試験に合格し、最終的には日本の大学の数学の講義に対応できるような学力を育成することを目標としています。

学生たちがこれまでにマレーシアで学習してきた内容は、日本の高校のカリキュラムと約半分が重複しています。しかし日本とマレーシアでは、指導の観点に加え、EJUで出題される問題の形式も大きく異なります。そのため、日本の高校生が学習する内容を最初から日本式でやり直す必要があります。また、多くの学生たちは日本留学特別コースに入学してから日本語を学び始めるため、数学の授業を日本語で十分理解できるレベルまでには達していません。そこで、最初は英語で説明したり、なるべく易しい日本語に置き換えたり、ふりがなや英単語を併記したりして、ゆっくり簡潔な説明を心がけながら指導していきます。数学の授業を通した日本語の指導という側面もあります。

私たちは教科会議で検討した年間計画にしたがって進度表を作成し、各週の会議を経て、全てのクラスで同じ進度、同じ内容の授業をしています。定期テストの他に、毎時間の小テストや、単元テスト、課題テストなど、頻繁にテストを行うことで学力の定着を図っています。また、テスト毎に分析・テストのやり直しを行うほか、各学生の学力に応じて補習を実施しています。さらに、2023年からは SemesterⅢ、EJU問題演習の授業においては習熟度別クラス編成を実施し、きめ細かな指導をしています。

現在8名の教員が在籍しています。常に目標を念頭に置き、議論を交わしながら、全員で全学生を指導していくという体制で教科指導を行っています。

4 その他

授業で使用するテキスト、演習プリントや小テスト、復習を目的とした課題プリント等を数学科全員で分担し、作成しています。これらは主に数研出版のスタディーエイドで作成しています。その他にも日本留学試験問題集、大学入学共通テスト問題集、全国大学入試問題正解（旺文社）等の参考資料も備えています。

数学科では、2年の5月から習熟度別クラスで授業を行っています。

物理科指導状況

1 指導範囲

私たちの指導目標は、日本の大学の授業を理解できる知識と学力を身につけさせること、及び日本へ留学するための試験に合格させることです。

AAJにおける物理の指導範囲は以下のとおりです。学習指導要領の内容に概ね沿って指導しています。各分野とも、物理基礎・物理の内容を統合して指導します。学生実験は修了試験後に行っていますが、また、これとは別に、授業時に適宜演示実験を実施しています。

- (1) 1学年 セメスターⅠ（前半） 力学（運動の表し方）
週1時間(約10週間)、大教室に全員を集め、私たち日本人教師の一人がプロジェクターを用いて講義し、他の4人の日本人教員が机間を回って個別に学生の支援をします。
- (2) 1学年 セメスターⅡ（後半） 力学，熱力学
ここからは、5クラスに分け、日本人教員がそれぞれのクラスを指導します。
- (3) 2学年 セメスターⅢ（前半） 波動，電磁気学，原子，EJU過去問題演習
- (4) 2学年 セメスターⅣ（後半） EJU対策，修了試験対策，実験

2 使用教材（2022年度予定）

- (1) 自主作成「分野別テキスト」（分野ごとに冊子を作成）
- (2) 自主作成「公式集」
- (3) 教科書 「改訂版 総合物理①、総合物理②」（数研出版）
- (5) 「フォトサイエンス物理図録」（数研出版）
- (6) 問題集「セミナー物理 物理基礎+物理」（第一学習社）
- (7) 問題集「フォローアップドリル 物理基礎・物理」（数研出版）

3 授業の進め方

学生はまじめで、授業に対して意欲的に取り組んでいます。しかし、マレーシアでは、小学校時より、パソコン・電卓を用いて計算を行うことが多く、代数計算、数値計算ともに不正確で時間がかかります。また、図の概形（角度のイメージなど）の想像ができない学生が多くいます。また、暗記中心の学習習慣があるため単に原理や法則を覚えようとし、その意味を理解したり、導いたりすることは苦手です。

セメスターⅠでは、初めから私たち日本人教員が授業をすることになりました。日本語が全く分からないだけでなく、中には英語も苦手な学生がいます。そのため、前半は、プロジェクターを駆使して（マレー語の解説文を導入して）、大教室で講義します。学生同士のその場での教え合いを大いに奨励しながらゆっくり進める予定です。授業内容は確実にどの学生も高校で習得しているであろう分野、「運動の表し方」（変位と距離、速度と速さ、等速直線運動、等加速度運動）に限定し、日本語での問題文や物理的解説文に慣れさせることを一番の目的として進めます。後半は5クラスに分け、5人の日本人教員が、それぞれ一クラスずつ担当し、週3時間の授業は自主作成テキストを用いてゆっくり行います。テキストに、マレー語や英語の訳を入れていますが、初めはほぼすべての文章に訳をつけ、徐々に訳を減らす（セメスターⅡの終わりには、新出の単語のみの訳）工夫をしています。

セメスターⅡ，Ⅲでは、自主作成テキストを主教材として日本語で授業を進めています。基本的には5人の物理教員が講義と演習授業（時には演示実験を見せることもあります）を各クラスで行います。主に、1年後半と2年前半の約1年間で高校物理のほぼ全範囲を学習するため、相当なスピードで授業を進めなくてはなりません。

週授業時間数は1年のセメスターⅡで5時間、2年生のセメスターⅢでは週8～9時間程度です。セメスターⅢは基本的に2時間連続の授業です。

学習内容をいかに学生に定着させるかが一番の課題で、そのために小テストや単語テスト、また週末や長期休業には課題を課して自己学習を促して、理解の深化を図っています。指導する側も十分に時間をかけ、根気強く教える姿勢が必要になります。

セメスターⅣでは、EJU（日本留学試験）対策の授業を進めます。EJUは、物理と化学を合わせて80分で実施され、物理の問題は19問です。それぞれ独立した問題となっています。難度は日本のセンター試験以上のものもあります。典型的な問題も出題される一方で、高い計算力、深い洞察力を要求する問題や、解答までに何段階もの手順を必要とする問題があります。学生にとっては、日本語を読みこなすだけでも大変です。このような試験で少しでも得点を伸ばすために、典型的で標準的な問題を見極めて、確実に解答するというところに重点を置いた試験対策を実施します。

来馬して最初の4か月間は、2年生（セメスターⅢ）は日本語での授業だけとなります。2年生も、はじめは日本語がたどたどしい学生がいますが、そこは学生間の教え合いなどを利用することで対応しています。しばらくすると、ほとんどの学生の日本語の能力が驚くほど上達してきて、徐々に日本語での授業に対応できるようになってきます。しかし、8月からは、1年の授業が始まります。どのような方法が、日本語を全く分からない学生に有効なのかは、正直なところ手探り状態ですが、少なくとも教員には、物理用語を英語に置き変える力、マレー語の単語を調べる力などが要求されることは間違いありません。日本語の意味を一つひとつ教えながらの授業となります。物理的な事象を、簡潔な表現の日本語で解説する工夫が必要になります。そして、この時期は、2年生にとって、EJU試験（11月中頃）に向けて、どんどん演習を量的にもこなしていく時期と重なります。効果的な指導が求められます。教材研究に多くの時間を費やすことになります。

4 その他……日本から持参したほうがよいと考えられる教材など

(1) 普段使っている参考書・問題集・映像資料・演示実験用の実験道具（自作した教材など）

(2) 問題作成用に、問題が多く収録されているCD、DVD

※ 演示実験用教材の基本的なものは、大方そろっています。特別に使用したい実験道具以外は、わざわざ持参しなくても大丈夫です。また、使用している教科書会社が提供するCDは大方そろっていますが、それ以外の特別なCD・DVDの教材については、持参した方がよいかと思われます。

化学科指導状況

1 指導範囲

EJU のシラバスに沿った内容を指導しています。日本の高等学校の授業内容とほぼ同じですが、学生の日本語での授業への取り組みやすさを考えて、項目の並びを変えています。

セメスターⅠ…1年生(前半) Introduction・化学の基礎(化学で使う日本語)・酸と塩基①
セメスターⅡ…1年生(後半) 酸と塩基②・酸化と還元・気体の法則・状態変化・熱化学
セメスターⅢ…2年生(前半) 原子・化学結合・溶液の性質・有機化学・高分子化合物・無機化学
セメスターⅣ…2年生(後半) EJU 対策授業・実験 等

2 使用教材(2023年度)

教材:学習テキスト(AAJ化学科作成) 他

教科書:高等学校化学基礎(東京書籍)・高等学校化学(東京書籍)

問題集:セミナー化学基礎+化学(第一学習社)・実践アクセス総合化学(浜島書店)

資料集:スクエア最新図説化学 六訂版(第一学習社)

3 授業の進め方

(1) 指導目標

- ① 日本での化学教育を受ける際に支障がないように、化学の基礎用語・知識を身に付けさせる。
- ② 日本の高等学校卒業以上の学力を身に付けさせる。
- ③ EJUに合格する学力を身に付けさせる。
- ④ 科学的な見方・論理的思考力を養う。

(2) クラス形態

- ① 1クラスに対して教員1名が授業を担当し、5クラス同時展開で行います。
※セメスターⅠやその他、クラス形態が異なる場合があります。
- ② 通常は学力を均等にして編成したクラスで授業を行います。
- ③ セメスターⅢ途中からは、EJU対策のために習熟度別クラスで授業を行います。

(3) 授業について

- ① 化学科で作成した学習テキストを中心として授業を進めます。学習テキストをホワイトボードにプロジェクターで直接投影し、マーカーで書きこむ形式で授業を行います。
- ② 単元ごとに作成された進度表に従い、5人が共通進度で授業を行います。
- ③ 実験を行う場合、器具や試薬を借りることができますが、オフィスへの事前申請が必要です。動画やアニメーションなどのデジタル教材も有効に活用しています。
- ④ 日本語習熟度を確認しつつ、短文を使いながら、ゆっくりと説明する必要があります。また、学習指導は解き方や内容を教えるとともに「日本語の意味を説明する」ことが重要となり、正しい日本語を使用する必要があります。
- ⑤ EJUの化学の問題は、基礎的基本的な問題が多いです。EJUに合格するためには、そのような問題を取りこぼさないことが重要です。そのため、化学科では、そのような問題の反復学習に力を入れており、宿題やテストを課すこともあります。

4 その他

- ① 2023年度より、セメスターⅠの授業は教科教員が英語で実施しています。
- ② ローカル教員及びラボスタッフとは英語でやり取りをします。
- ③ 授業でプロジェクターを使用しますので、ノートPC、タブレット等を持参してください。
- ④ プロジェクターにはHDMI端子があります。HDMIケーブル等を持参してください。
- ⑤ 日本で使い慣れた参考書、問題集、デジタル教材などは持ってくる役に立ちます。
- ⑥ 複数回の学生実験を行う予定です。白衣を持参してください。
- ⑦ 日本のオープンキャンパスのような、地元の高校生対象の体験授業も行います。